

諸軍艦ノ部

五

0601

艦政本部長 (有馬)

第四部長

第三部長

會計課長

部員 (大木)

副官

印

印

参事官

發付

大臣

三十七年一月十六日起案

一十六日

次官
總務長官

印

軍務局長

印

局長

經理局長

印

主任局員

印

印

印

指令案

横濱第六号第一水雷艇隊
官房第一九〇號

あ

一十六

0602

海軍

第三十號特定代理員ノ於本年分
八重山特定代理員ノ振替ノ件認
許ス

明治三十七年 一月十日

0603

至急

横領第六六號

一ノ五



第四部長

第三部長

會計課長



造船及修理費中特定修理費

豫算振換使用ノ件并申上

水雷艇第廿九號第三十號ハ特定修理

費本年年度中ニ完成セシムル筈有之

候度役務ノ都合上差當リ大修理

ヲ施行スルニ機曾モ無之ニ付右兩

艇ノ特定修理費ヲ軍艦八重山ノ

特定修理費ニ振換一同艦復舊工

事ヲ出來得ル限リ施行致シ度

右認許ヲ仰キ矣也

明治三十七年一月十四日

官房第一九〇

海

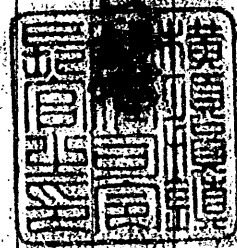
軍

0604

横須賀鎮守府司令長官男爵井上

海軍大臣男爵山本權兵衛殿

進_レ行_レ奉_レ女_レ兩_レ艇_レ特_レ定_レ作_レ理_レ費_レノ_レ工_レ事_レハ
全_ク未_レ着_レ手_ニ有_レ之_レ候_間為_レ念_副
申_一矣_也



井上

印

0605

経
造

艦政本部長


第三部長
第一部長




部長


製圖室







三三三


0606

副官


参事官

發行
三三三


大臣

三十七年三月十一日起案

總裁
海軍


軍務局長


局員




指令案

佐鎮第一二号ノ七四六軍艦初瀬通信装置改造

官房第九三五號
三

及増設工事方案ノ通リ認許ス

領海線外に第五号月洞合、別紙第一項ノ對スルコト

方案ヲ提出スルコト

昭和二十七年三月十二日

0607

政務部長官

第三部長官

部

務

佐賀第一号、七四六軍艦初級通信装置、
三月十号、船本第一二七四号、同左、
急回差有、
三月十号、中島長

佐賀保工廠

艦本第一二七四号

0609

艦政本部長

頂上

第三部長

部員

海軍省

附録

海軍省

第一部長

佐鎮第一二号ノ七四六軍艦初願通信装置取

造増設ノ件一ヨリ申有リシヨリ海軍省二六

二五号訓令ノ別紙第一項ニ関スル造船兵器局

廠長ノ調査ニ関面ニモ何等ノ記入無シ在

近ニ高聲電話機設置ニ付概見ヨリ今

日ニ施行相成リガニ功亦十ヨリ何種ノ考

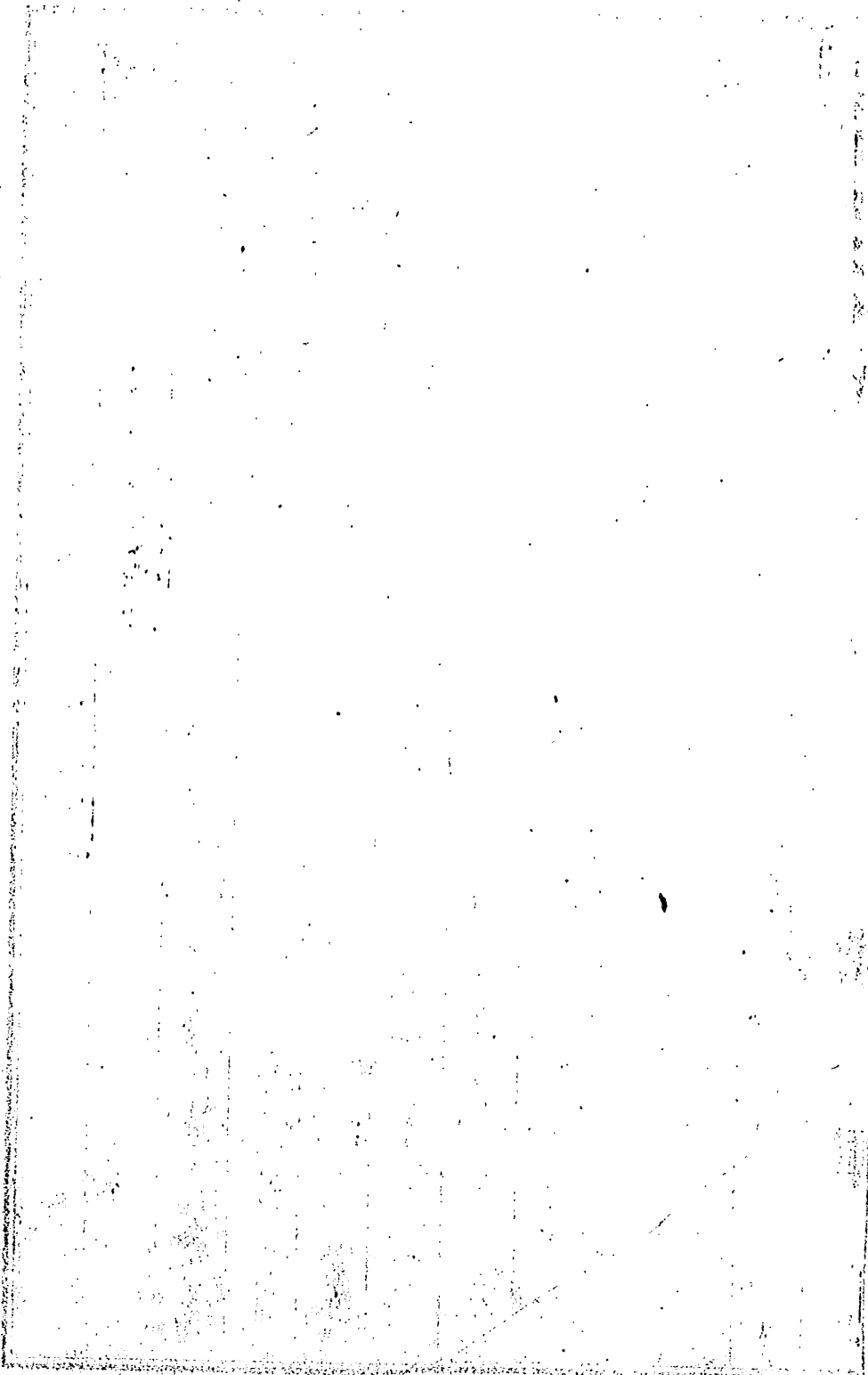
考類ニ付テハ

三十七年十月十日。本部長

佐也保工廠長

艦本第三二七四番

0610



0611

海防第三六二五号ノ三十七年七月
 佐官保勤守付ノ訓令ノ別紙

七月十四日軍艦通信装置調査委員會決議

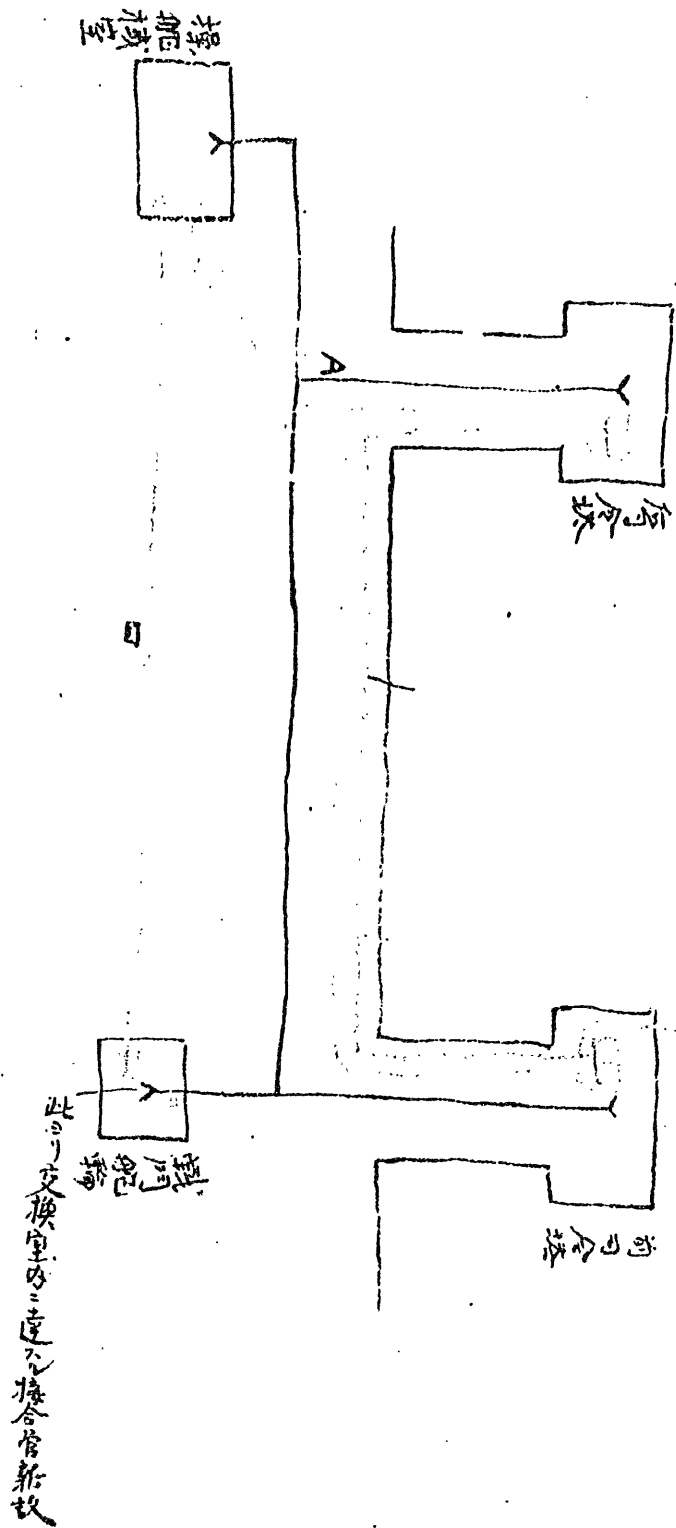
軍艦初瀬ニ左記ノ通信装置改装並ニ増設ヲ要ス

主要通信ノ部

- 一 前部十二尹、前右部司令塔后十二尹、高声電話ヲ以テ左圖ノ如ク連接スル



前司令塔ヨリ前右十二尹及后司令塔ヨリ前右十二尹、合時又ニ別々ニ通信レ得ルヲ要ス



右高声電話ノ設置迄、前部司令塔ヨリ前部砲塔へ左
 部司令塔ヨリ后部砲塔へフレキシブルパイプ上
 方ヨリ通すリ
 二、操艦通信装置ヲ如ク改装内増設スル

無線機

無線機

0613

「高声電話
傳話管
防水コック

岸三項、高声電話、目的

一、自前司令塔又前艦橋 至操舵機室

二、自右司令塔又后艦橋 右 全

三、自前司令塔又前艦橋 至右司令塔又后艦橋

一、二、三、全時、使用スルーナレ 三、由司令塔別、一若ク、二、全時

、使用スルコトアルモノトス

(一、二項、對スル註解)

(イ) 高声電話ノ出来上ルト全時、已設傳話管中Aノ

部ヲ切斷レ后司令塔ヨリ別ニ導キタル一管ノ残片ト

接ス

(ロ) 保護筒内ノ通レ方困難ナル中、已設傳話管ヲ

次の目的に達せしむる様片附近ノ接合上ヨリ人ノ如ク前艀橋ヨリ司令塔ヨリ操舵機ノ通信ノ管ニ由テ實行ス

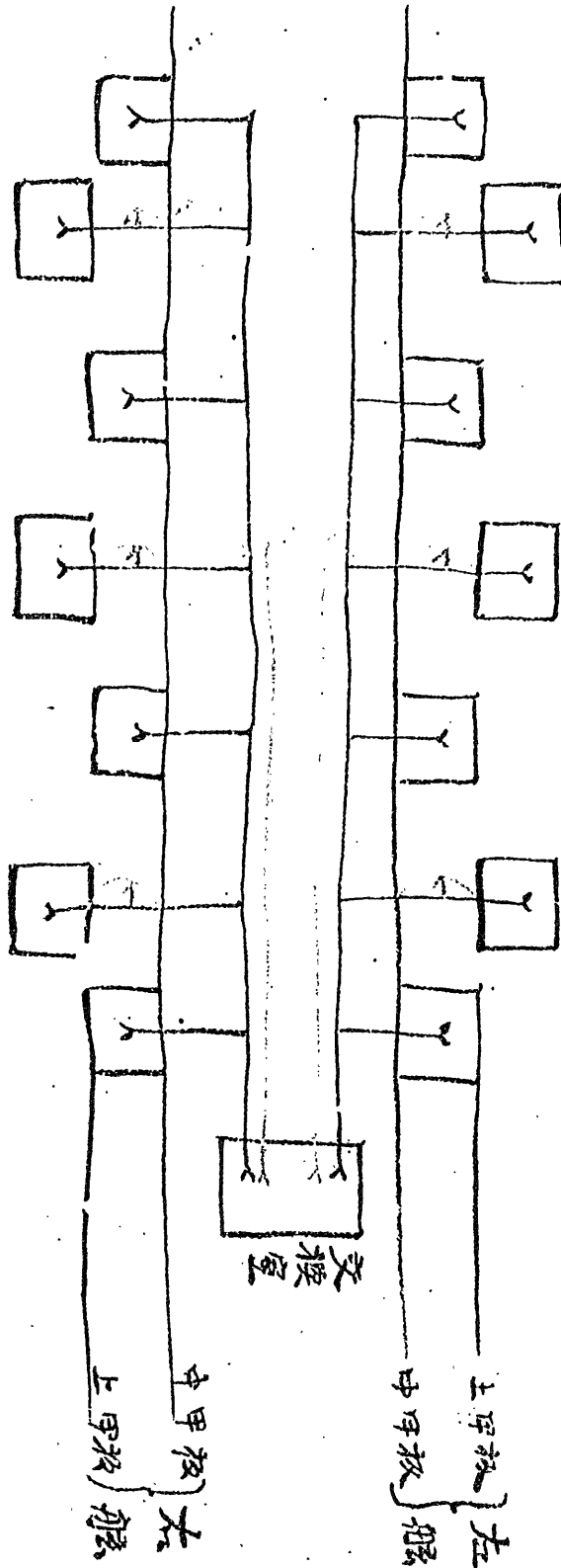
(ハ) 一、二項ヲ通シ高声傳話ノ数不足ナルトキ(第二艀橋ノ分見合ス(第三)后司令塔ヨリ操舵機室ニ至ルモノヲ見合ス(第三)后司令塔ヨリ前十二号砲塔ニ至ルモノヲ見合ス)ヲ得

三、交換室ヨリ六甲、ケース、トトト通ル傳話管一、目下各

艀ニ一組マアリテ其各組ハ七個ノケース、トトト談話ニ得ルハ在置ナリ之ヲ前部四個、后部三個ト別々ニ組ニ改装スルヲ左圖ノ如クス

0615

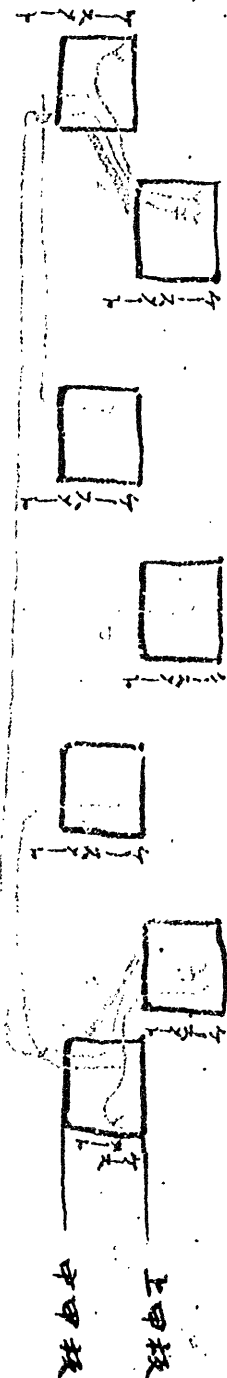
赤い改裝スヘキ部ヲ示レ(イ)ノ部ハカクテ防衛スルノ要ス
 ×ハ切斷スヘキ部ヲ示ス



0616

四、局部通信ノ部
 六甲砲台内部、通信用トシテ左圖ノ如ク喇叭管新設

圖ハ片舷砲台ヲ示ス

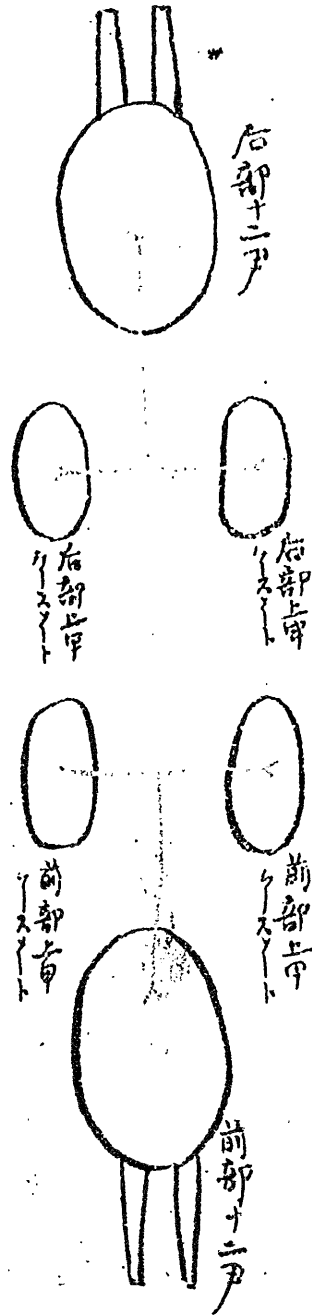


電鈴ヲ要スルモノ、各部ハ二吋鋼板ヲ張ルカ又カノテ防衛部
 ヲ通スルヲ要ス

五、前部十二吋砲塔中央照準台ヨリト甲板前部兩舷ケリ
 ストト及ヒ后部十三吋砲塔中央照準台ヨリト上甲
 板后部兩舷ケリトト、各喇叭管新設次圖ノ如シ

自	至	管種	十二尹砲塔内部 (砲塔内ヨリ 下方弾庫ニ至ル)	通信装置標準
一中央照準台	左右照準台	二吋喇叭管		
二右方照準台	左方照準台	全右		
			一ニハ 次ノ如 ク造リ	

構造上出来難キトキハ高声傳話ノ代ニテ得
 六十二尹砲塔内部ノ通信ニ左記標準ニ由リ不足ノ分
 改裝ヲ設ス



三、右方照準台	旋回機室	笛付傳話管	
四、右方照準台	ウオーキングマシン	二吋喇叭管	
五、中央照準台	彈庫	全右	
六、ウオーキングマシン	彈庫	全右	中央照準台 ウオーキングマシン 彈庫
七、中央揚葉筒	ウインケキマシン 即チ人力揚葉機室	笛付傳話管	
八、人力揚葉機室	彈庫	全右	
九、中央複揚葉機室	下方手挺取扱者	喇叭管	
一〇、動力変更装置	旋回機	全右	動力ヲ変更スルハ上下ノ嵌合装置ヲ嵌合部 ヲ迅速確實ナラシムルガ爲メ

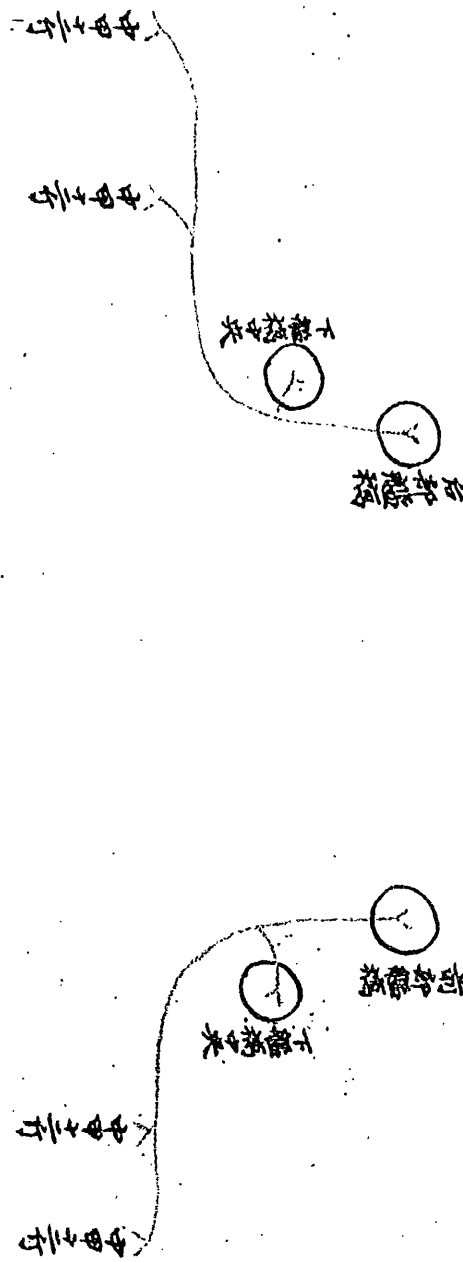
前記通信装置ハ保護部ヲ通スルヲ要ス

輕砲台通信

七、前部艦橋ヨリ前部下艦橋中央ヲ經テ前部中四枚
十二寸砲座ニケ所、喇叭管新設

0619

后部艦橋より后部下艦橋中央ヲ経テ后部中甲板
十二行砲坐ニテ所一喇叭管新設



有形的電氣通信ノ部

八、ハリーエントストラウト式通信機ノワイヤレハ保護部ヲ通スル様
改装ヲ要ス

九、檣楼ヨリ前ノ令塔ニ至ル巨萬通信機ヲ改メ后部ヨ

令塔ニ發信機ヲ置キ前部ヨ令塔ニ受信機ヲ置ク
様改装ヲ要ス

0621

一 前記通信装置ハ前司令塔ヲ全砲火指揮者ノ位置
トシ右司令塔ヲ之レカ副トシ砲台指揮者ノ位置ヲ前
右十二号砲塔中央照準台及ヒ上甲板四個ノケースノ
トシ（但シ砲台長用塔ヲ全四個ノケースノトシ上ニ設
シタルキハ下方必要）通信機関ヲ塔内ニ移ス）主要
通信機関ヲ前司令塔ヨリ該六ヶ所ニ直接又ハ間接
ニ導キ右司令塔ヨリモ亦タ全様ニ導ク様改装及ヒ
増設シタリ

右ノ理由ニテ交換室及ヒ右司令塔ニハ最モ確實ナル傳
令者ヲ配シ各受令位置ニモ確實ナル傳令ヲ配シ以
テ指揮ノ確實ヲ期スルノトス

二 此各指揮者ノ位置ヨリ部下砲坐へ連絡ヲ取り又ハ砲

台長欠負シ一人トナルモ一艦ノ砲火ヲ殆レト完全ニ指
揮スル為ノ又ハ必要ニ際シ一砲台長ヲシテ一艦ノ補助
砲火ヲ指揮シ又ハ主砲ニ於テ補助砲ノ彈着及ヒ
射巨高ヲ知り自己ノ砲火ヲ指揮スル等ノ為メ局部
通信装置ヲ設ケタリ

三 喇叭管トハ喇叭口ヲ有スル傳話管ヲ云フ改装傳話管

ニモ可成喇叭口ヲ附スルヲ要ス喇叭口ヲ使用スルハ耳ト
口ト同時ニ聽聞圈内ニアルヲ以テ聞キ外ストナク又々聞ハ

ヨキヲ以テナリ

右ノ主旨ニ基キ決議シタルモノナルヲ以テ実行者ニ於テ
不便アル所ハ此主旨ニ合スル様多少改良ヲ加フルモ差
支ナキモノトス

佐鎮第 一二號 七四六

軍船神頼通信装置改造及増設圖に稟申

本年七月海兵第 二六二五号 訓令 其于 本府所管軍
船初級通信装置改造及増設に關し別紙當面造形廠
長並各級長之事方案を一通り著手致度矣余所
先許相成度令級長に貴員概算等請書并に圖面
三冊を相添へ此致稟申奉也

艦政本部

明治三十六年十月九日

海軍大臣 野村浩平 閣下 爲 奉 命 官 長 官 規

佐鎮保鎮 長官印

第三部長

第一部長

海軍大臣野村浩平閣下 爲 奉 命 官 長 官 規

官房第九三五號

海

軍

0624

軍艦初瀬通信装置改造、對スル工事方
案
入費概算等調書

一通 信装置改造

工事方
案

一 現在、装置、前部司令塔ヨリ操飛機臺ニ至ル
管ヨリ支管ニテ後部司令塔ニ通シアリシヲ支管
志本ヲ後部司令塔ニ増設シテ以下、如クナセリ、即チ
前部司令塔ヨリ後部司令塔ニ至ルモノト後部
司令塔ヨリ操飛臺ニ至ルモノト、ニ存トス

(圖中符號解説中)

二 操飛通信装置新設

前部司令塔ヨリ操飛機臺ニ至ルモノト志本新設ス

（圖中符號解説中ノ二）

三、交換室ヨリ六甲ケース止ニ通ル傳話管新設

現在ノ装置各舷ニ組ヅアリテ其各組ハ七個ノケース

ノ一トト談話し得ルノ装置ナラシメテ前部四個ト

後部三個ノ二組ニ改装ス（圖中符號解説中ノ三）

四、六甲砲塔内部ノ通信トシテ喇叭管新設

次ニ掲ケル三種ノ管新設

一、艀部三個ノ砲台連続管（圖中符號解説中ノ四）

一、艇部三個ノ砲台連続管（圖中符號解説中ノ五）

一、上甲板三個ノ砲台連続管（圖中符號解説中ノ六）

五、前部艦橋ヨリ前部司令塔ヲ經テ前部上甲板

十二斤砲ヲ經テ美喇叭管新設（圖中符號解説中ノ七）

六、後部艦橋ヨリ後部司令塔ヲ經テ後部上甲板

三行ニテ所ニ亮喇ハ管新設 圖中符號解説中ノ八

七、前後部十二尹砲台右方照准十台ヨリ「ウチノキニダケヤシバ」

ニ至ル天ノ 圖中符號解説中ノ九

八、前後部十二尹砲台人力揚彈機臺ヨリ彈庫ニ至ル

圖中符號解説中ノ十

九、前後部十二尹砲台中央復揚彈機坐左右舷ヨリ

下方手挺取扱者ニ至ル 圖中符號解説中ノ十一

十、前後部十二尹砲台動力變更裝置ヨリ旋回

機ニ至ル 圖中符號解説中ノ十二

十一、前後部十二尹砲台ヨリ六尹「ケリス」トニ至ル

但前部ノ位置ニ 圖中符號解説中ノ十三

前部交換室外ヨリ該室中ニ導ク 接続管新

設

以上諸管ノ通路ハ圖面ノ如クニシテ管ノ至ハ一ヨリ(六)迄及ヒ(七)ハ内至ニ時ニシテ他ハ一吋四分ノトス(一)ヨリ(六)迄及ヒ(七)ハ電鈴付キ(八)ハ(九)ハ留付傳言管トシ(十)ハ喇ハノトス

以上ニ付スル

入費概算美金四千八百五拾四

内 工費 美金四千五百五拾四
材料費 美金七百九

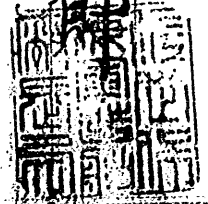
工事日子 六十日 明日

重量増加 貳噸百八十六斤

右

明治三十六年十一月二日

佐世保海軍造船廠長 臼井藤一郎



軍艦初瀬通 信装置改造 二 繋スル

工事方 案入費概算等 調書

一 軍艦初瀬通 信装置改造

一 戦闘舵輪ヨリ操舵機室ニ至ル傳話管新設ニ對スル電鈴新設

(圖中符號解説中ノ二)

二 六甲砲塔内部ノ通信トシテ三種ノ喇叭管新設ニ對スル電鈴新設

(圖中符號解説中ノ四五六)

三 前部艦橋ヨリ前部司令塔ヲ經テ前部正甲板十二行砲ニ至ル喇叭管新設ニ對スル電鈴新設

(圖中等號解説中ノ七)

四、後部艦橋ヨリ後部司令塔ヲ経テ後部正甲板十二行砲ニ至ル喇叭管新設ニ對スル電鈴新設

(圖中等號解説中ノ八)

五、前部十二行砲台ヨリ六行ケースメイトニ至ル喇叭管新設ニ對スル電鈴新設

(圖中等號解説中ノ十三)

以上新設電鈴ノ電路線ハ悉ク新設傳話管ニ沿テ導クモノトス而シテ之ニ要スル增加兵器ハ大ノ通りニシテ通信用電池ハ當廠水雷庫貯藏ノモノヲ用ヒ他ハ貯藏品ナキヲ以テ工場ニ於テ製造スベキ見込ナルニ依リ製造方御訓令

要ス

一 通信用電池

補用 三三

六個

工場ニ於テ製造ヲ要スル兵器ハ左ノ如シ

一 指示器

初願備付
ノモノ
左ニ

貳拾八個

工賃金 七拾八圓四拾五
材料費金 三拾三圓六拾五

一 電鐘

右左

貳拾壹個

工賃金 九拾四圓五拾五
材料費金 六拾參圓

一 電鑰

右左

貳拾六個

工賃金 拾八圓一拾五
材料費金 拾參圓

一 電路変更器

右左

貳個

工賃金 貳圓四拾五
材料費金 陸圓六拾五

計金 參百四圓七拾五

工賃金 百九拾參圓五拾五
材料費金 百拾陸圓貳拾五

取自費ハ左ノ如シ

工賃金 五百拾圓五拾五

材料費金 八百六拾貳圓八拾錢

計金 千三百六拾四圓三拾五

合計金 千六百六拾九圓

工事日数

四十日間

重量増加

四百五十キロ

右之通り

明治三十六年十一月二日

佐世保海軍兵器廠長 児玉利賢



0632

總務部長 (印)

第三部長
第四部長 (印)

會計課長 (印)

3-37

清水 (印)

副官

參事官 (印)

參事官

四月一日

三月廿四日起案

木原

次官

(印)

總務長官

總務局長

(印)

司員

(印)

(印)

(印)

送第四三四号ノヲ以テ海軍擴張費ニ付スル三等

按

官房第一三三二號

海軍

0633

巡洋艦一隻 汽吹水砲艦三隻 製造計畫及兵器
豫定要領並費額 増減調件 照會之趣
了 兼右者 別紙ノ通ニ 奏案ノ 查收 相成度
矣也

明治三十七年四月一日 次 官

會計検査院部長宛

0634

検査院送付分

扣

海軍擴張費ニ属スル三等巡洋艦二隻浅喫水砲艦三隻製造計畫ノ豫定要領

水雷艇	水雷防禦網	駛船螺旋	石炭庫量	速力	船體ノ質	平切喫水	幅	垂線間長	排水量	製造所	内	国内	国外	国外
十	十	二	六〇噸	二一節	鋼	一五呎九吋	四一呎三吋	三三呎六吋	三〇〇噸	三等巡洋艦 (音羽)	浅喫水砲艦 (宇治)	同	(伏見)	同 (陽田)
十	十	二	一五〇噸	一三節	鋼	六呎十吋	二七呎六吋	一八呎五吋	六二〇噸	国内	国外	国外	国外	
十	十	二	三〇噸	一四節	鋼	二呎三吋	二四呎六吋	一六呎	一八〇噸	国外	国外	国外	国外	
十	十	二	二四噸	一三節	鋼	二呎	二四呎	一四三呎二吋	一二六噸	国外	国外	国外	国外	

0635

衆組人員

三一二人

九六人

四三人

四〇人

演算

0636

検査院(送付)

扣

海軍擴張費三属三三巡洋艦一隻浅水砲艦三隻備有兵器要領

十五梅速射砲	二	門	同	同	同
十二梅速射砲	六	門	同	同	同
十二斤速射砲	九	門	同	同	同
六斤速射砲		○	同	同	同
機砲	二	門	同	同	同
探海電燈	三	基	同	同	同
小兵器類	一	揃	同	同	同

三等巡洋艦
音羽
浅水砲艦
宇治
(伏見)
(隅田)

海軍

検査院(医附分)

扣

海軍擴張費ニ屬スル浅喫水砲艦二隻製造費豫算増減諸

科目		三十七年度	
造船費			
軍艦製造費		五四〇,〇〇〇,〇〇〇	
第二號淺喫水砲艦製造		二七〇,〇〇〇,〇〇〇	
第三號淺喫水砲艦製造		二七〇,〇〇〇,〇〇〇	
水雷艇製造費		五四〇,〇〇〇,〇〇〇	
百二十噸水雷艇六隻製造		三六〇,〇〇〇,〇〇〇	
百二十噸水雷艇五隻製造		一八〇,〇〇〇,〇〇〇	
造兵費			
軍艦兵器費		一五〇,〇〇〇,〇〇〇	
第二號淺喫水砲艦兵器		七五,〇〇〇,〇〇〇	

母
軍

會計検査院(送付)

扣

海軍擴張費ニ属スル三等巡洋艦一隻淺喫水砲艦一隻製造費豫算増減調

科目	三十五年度			三十六年度			三十七年度			合計
	三十五年度	三十六年度	三十七年度	三十五年度	三十六年度	三十七年度	三十五年度	三十六年度	三十七年度	
造船費										
軍艦製造費										
第一号水雷砲艦製造	四二、六八一五七。	三八、八九八五。	三六、一八八。	八四、六七九四二。						
第二号水雷砲艦製造	四二、六八一五七。	三八、八九八五。	三六、一八八。	八四、六七九四二。						
第三号水雷砲艦製造	四二、六八一五七。	三八、八九八五。	三六、一八八。	八四、六七九四二。						
第三号三等巡洋艦製造	五九、三三三二四。	五九、七九二六一。	七三、三七六。	一四三、三三三、七五。						
淺喫水砲艦製造	五、〇〇〇。	二、九八二、九。	。	二、六九八、九。						
造船費										
軍艦兵器費										
第一号水雷砲艦兵器	二、八、七八九九一。	二、三、八三三、四二五。	五、七六五。	四、七、七六六、四一六。						
第二号水雷砲艦兵器	二、八、七八九九一。	二、三、八三三、四二五。	五、七六五。	四、七、七六六、四一六。						
第三号水雷砲艦兵器	二、八、七八九九一。	二、三、八三三、四二五。	五、七六五。	四、七、七六六、四一六。						

母

直

送第四三四號

海軍擴張費造船費中三等巡洋艦一

隻淺喫水砲艦三隻当初計画外ニ製造

セラレタルハ本雷砲艦二隻製造、計画ヲ変

更セラレタルモノト被存於就テハ明治三十四年

七月十二日送才八〇号ヲ以テ五照令致置

於通リ計画変更ニ係ル申艦製造及与

旨ノ管定要領並ニ其書類、増減其旨通

知相成夜此段及照令致也

明治三十四年七月

海軍大臣 中根敬茂

官第一三三三號

海軍次官 齋藤 實 殿



0642

形

艦政本部長 (坂馬)

第三部長

部員

會計課長

製圖室

表

副官

兼

參事官

大臣

二十七年九月十九日起案

發付 四廿

總務局長

軍務局長

局員

經理局長

主任局員

指令

橫鎮第五五三號軍艦豐橋船體部

官房第一四七八號二

海軍

0644

新設改造、外認許
昭和三十二年四月廿一日

洋
字

0645

軍艦豊橋船体部新設改造ノ義

上律

一消毒器室新設ノ件

一傳話管新設ノ件

一中甲板ニ復設ノ新設ノ件

一後部隊備僅ニ測器格納所ニ改造ノ件

右第一項ノ豫メ訓令ニ基キ第二項以下ノ別

紙寫ノ通豊橋艦長ヨリ具申ニ依リ調

査候處迄送付必妥ト認メ候得此際着

手方御認許相成度別紙工事方案

書圖面ニ葉及重量増減表相係此

第一四七八號

五

四九

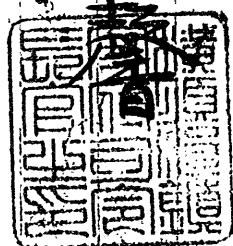
0646

版上律一候也

明治三十七年四月十八日

横須賀鎮守司長官男壽井上良

海軍大臣男青野山本楨吉衛之助



海軍

0647



豊普第五三八号

取付機関及兵器修理新設相成度
具申

別冊に通り本艦大修理、際取付機関及兵器修理改造新設相成度、取付機関及兵器修理新設相成度、具申

明治三十七年十月廿日

軍艦豊橋艦長丹羽敬忠

豊橋艦長印

横須賀鎮守府司令長官男爵井上良馨殿

海軍

豊番第五三八号

振草

新設改造ノ部 (形付ノ部)

一 後部豫備室

吉ヶ所

右寢室トシテ狭隘且状態ノ設ナリ寢室トシテ不適者有 測器格納所、改造ヲ導ク

一 茅二區下甲板ニ係所

吉ヶ所

右下ニ有家族(童ノ婦人)係来ノ際必要ニ付 新設ヲ導ク

一 傳話管新設

吉ヶ所

右空気壓検唧筒室ヲ水雷調整室、一本必要ニ付

軍艦豊橋新設改造工事方案

一、消毒器室新設

別紙画面ノ通り准士官浴室ノ一部分ニ銅板ヲ以テ隔壁ヲ設ケ別出入口ヲ作り之ニ消毒器ヲ入レ銅管内径拾九センチノモノヲ以テ揚鉤機用ノスチー
ムパイプニ接続シエキゾーストパイプハ直外舷ニ導ク

重量 増四百五拾キロ

材料費 金百七拾円

工費 金百拾五円

工事日子 貳拾日間

一、傳話管新設

0650

前面ノ通りニ径拾五センチ銅管ヲ用ヒ水雷調

整室及一壓搾唧筒室間ニ傳話管ヲ新設ス

材料費 金百貳拾円

工費 金四拾六円

工事日子 拾日間

重量 増 八拾七キロ

一、中甲板ニ便所新設

枚板ヲ以テ前面ニ示セル如ク隔壁ヲ作り内ニ便器ヲ設

ケ排泄管ヲ艦外ニ導キ海水管ハ病室便所海水

管ヨリ分岐セシム

材料費 金八拾円

工費 金六拾円

工事日子 拾五日間

0651

重量 増 卷百六拾キ口

一後部豫備室ヲ測器格納所ニ改造

在来ノ窓壁ヲ取除キ松材ヲ以テ棚ヲ設ケ箇面ノ如ク改造ス

材料費

金貳拾円

工費

金拾六円

工事日子

七日間

重量

増 貳百五拾七キ口
減 百五拾キ口

右

明治三十七年四月

横須賀海軍工廠造船部長 原田貫平

